

平成30年11月15日

東大和市立中央公民館
館長 尾又 恵子 様

東大和市立公民館運営審議会
会長 佐々木 辰彦

公民館開館50周年記念事業について（答申）

平成30年2月15日付「大教社公発第71-1号」により諮問のあった
標記の件について、別紙のとおり答申いたします。



答 申 書

I はじめに

公民館は、多くの市民のために教育、芸術及び文化に関する各種の事業を行うことで教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的としています。

東大和市の公民館が、長年にわたって積み重ねてきた実践や研究を活用しながら、現在の地域の課題解決や住民の学習意欲の向上と内容の充実を図っていくことが大切です。

開館50周年の節目を迎え、これまでの実績を基盤に社会教育機関としての公民館の役割の原点『自由につどい、自主的に学び、文化を創造していくという民主主義社会における住民の権利を具体的に保障していくことである。』を市民と職員とで改めて確認し合う機会とします。

さらに、これからの公民館活動等に反映させていくことや活動内容の充実と発展をする始点として実施する記念事業を次のとおり答申します。

II 記念事業計画

公民館50周年記念事業の実施にあたり、テーマを「地域・ひととのつながりを一層高めるための公民館」とします。年間を通じて行う事業については、特に子供や若者などの参加、少子高齢化対応、魅力あふれる講演会を重視していきたい。

1 オープニングイベント

(1) 前夜祭

開会式に向けての雰囲気づくりにもなることから、参加した誰もが楽しめるような内容で検討をお願いしたい。

(2) 開会式〈2021年6月〉

① 式典

来賓の挨拶後、公民館を利用する活動グループ等と市内の幼児・児童・生徒に演技・演奏等をお願いしたい。

② 記念講演

市民生活に密接する公民館に関連したテーマによる講演会としたい。

なお、この事業は2021年6月の予定だが、隔年実施の「中央公民館まつり」との日程調整を図るようにしたい。

(3) 作品展示

秋に行う「市民文化祭」との調整を図りながら、公民館5館を利用するグループ全体の活動を展示する内容としたい。

(4) 市民参加型事業

テーマに沿って、市民が参加できるイベント（「ペタペタアート」「50周年記念オブジェ」等の作成、市内公民館を回る「スタンプラリー」等）の検討をお願いしたい。

(5) 閉会式〈2022年3月〉

1年間のさまざまな活動をふりかえり、60周年に向けての決意を込めて作成した「50周年宣言」を発表することとしたい。

2 地域力の向上

市民の誰もが住みやすい心豊かなまちづくりのために、次の二点についての検討をお願いしたい。

(1) 『ご当地グルメ研究会』～東大和市の「食」を考える～

多世代が集まって公民館で座談会を行い、東大和市でしか味わえない「ご当地グルメ」は何かを話し合い、それらを市民や他の地域に広める方法を考えることは、観光ポイントのひとつとなる。市民が知恵を出し合っ
て「食」を考えながら「地域・ひと」とのつながりを深めることによって、公民館が目的の一つとしている「まちづくり」につながると考える。

(2) 『居場所づくり座談会』～中・高校生、青年たちが求める居場所とは～

「三多摩テーゼ」の提言にあるように、「公民館は住民の自由なたまり場」という役割を担っている。しかし、東大和市では、中・高校生や青年たちが安心して集える場所が不足していることが、長年の地域課題の一つになっている。特に、次世代を担う中・高校生や青年たちにとっての「居場所づくり」のために、どのような方策があるのかをテーマとした「座談会」を夏休みに行う「遊空間」等で開き、意見を聞く機会を設けたい。

3 公民館を支えてきた人々 ～座談会とその記録～

会館30周年記念誌に掲載後、市民グループ「はじめの一步」が東大和市の社会教育における先人の活動の記録を引き継いできた。平成26年度からは中央公民館との共催で行なっている。

これまで東大和市の社会教育、とりわけ公民館活動を推進してきた方々に集まっていただき「座談会」を開催したい。公民館の今までとこれからの活動についての展望などと市民がこれまで以上に活用できる公民館となるための方策等について話し合い、その記録を記念誌に掲載したい。

4 記念誌

記念誌は公民館の活動記録であると共に、東大和市社会教育史年表など、過去、現在、未来を知り、考える時の貴重な資料であり、必要不可欠な記念事業の一つである。

- (1) 記念誌はA4版とし、写真、イラストを用いて、頁数は可能な限り縮小し、字を大きく、読みやすくシンプルにしたい。
- (2) 記念誌の内容は50周年記念事業の様子、40周年からの10年間の活動内容を中心にまとめる。さらに付表として40周年の教育史年表に加えて、この10年間の記録を付け加えたい。
- (3) 今後の活動の足がかりとなるよう市民、職員、公民館関係者の論文やエッセイ、「社会教育と人シリーズ」(座談会の記録)等、可能な限り掲載したい。
- (4) 発行時期は周年事業が終わった後、速やかに発行したい。
- (5) 発行後は公民館や図書館(都公連加盟自治体等)の書架等に置き、市民が自由に閲覧できるようにしたい。

5 PRビデオ(DVD)

5分間程度で公民館の魅力を伝えることのできるプロモーションビデオを作成し、市のホームページをはじめ、各公民館まつりでのオープニングや市役所のテレビ等で流し、多くの市民の皆さんへ公民館の魅力をアピールできるものが望ましい。作成については、プロモーション映像作成に精通した市民の方や制作会社に依頼することも視野に入れ、市民のアイデアを大切にしたい、完成度の高いものとしたい。

6 リーフレット

国立市が作成したような、持ち歩きのできるポケットサイズで、公民館の場所や開館時間、活動内容や利用方法などをすぐに確認できる形が望ましい。また、内容はイラストや写真を盛り込み、小学生から高齢者まで、どの世代の方でも読みやすく、配慮(ルビ付き版や英語版等)のあるものとしたい。

7 記録映像

将来において、過去の記念事業の様子を映像で振り返ることは重要である。過去の映像記録が、公民館活動の様子を生き生きと伝えており、現在の重要な資料となっていることから、映像の記録を残すことは大変有意義である。記録の手法については、予算をかけずに家庭用のビデオ機器等による

撮影でよいが、機器の機能や記録媒体の変更にも対応できるような保存方法を使うことが望ましい。これらの記録は、あらかじめ決めた場所に保管し、公民館関係者がいつでも活用できるようにしたい。

Ⅲ おわりに

第24期公民館運営審議会は、平成30年2月15日に中央公民館長から「東大和市公民館開館50周年記念事業について」の諮問を受けました。

50周年記念事業の実施に当たっては、30周年及び40周年の行事と同様に「実行委員会方式」で取り組むことが望ましいと考えます。また、この事業の実施のためには予算措置が必要です。生涯学習の拠点であり社会教育の中心的な施設である公民館活動の充実と発展のために、関係方面の格段のご理解とご配慮をお願いいたします。

東大和市の公民館がこれまで歩んできた実績をさらに改善充実させていくことが社会教育機関の一つとしての公民館の役割であることを改めて認識し合うことができる「開館50周年の記念事業」となることを願います。

☆本答申書の作成に当たっては、起草委員会を組織して作成しました。

〈起草委員会委員〉

上林 真佐恵 川村 光弘 佐々木 辰彦
山崎 喜美子 若野 雅實 (敬称略 五十音順)

〈委員会開催日〉

- 第1回 平成30年3月29日(木)
- 第2回 平成30年4月12日(木)
- 第3回 平成30年4月24日(火)
- 第4回 平成30年7月 3日(火)
- 第5回 平成30年7月24日(火)